

教育目標「自ら未来を拓き 心豊かに たくましく生きる子供の育成」



遷喬小だより

TEAM 遷喬・PRIDE 遷喬 ～なかよく 明るく つよく正しく～

ICTの効果的活用

2学期も子供たちが、主体的に学び表現し合えるように各学年で授業を進めています。主体的に表現し合うためには、子供たち一人ひとりがまずは自分の考えをもつことも大切です。各学年で自分の考えをもつために、タブレットを効果的に活用しています。

2学期1週目の活用の様子を紹介します。



2年生「国語」

読書アプリ「Yomokka!」を活用し、おすすめの本の紹介をしました。



4年生「国語」

故事成語をインターネットで調べ、紹介しました。



5年生「国語」

自分が作った短歌を「オクリンクプラス」というアプリに入力し、お互いの工夫を確認しました。

アナログ体験も大切

6年生では理科の学習で「月の満ち欠け」の仕組みについて学習しました。デジタル動画を見て仕組みを確認することもできますが、アナログな道具を使って太陽と月と地球の位置関係を再現した実験を行うほうが、よりリアルに仕組みを理解することができます。担当教員の準備は大変ですが、子供たちの理解をより深めるためには、アナログ体験も大切です。



6年生「理科」

全国・県学力学習状況調査

4月に実施した全国・県学力学習状況調査の結果をお伝えします。

3年生は、国語と算数どちらも全国・県平均を超えていました。4年生は、国語は全国・県平均を超えていました。算数は、全国・県平均とほぼ同等の結果でした。5年生は、国語は全国・県平均とほぼ同等でしたが、算数は全国・県平均より低い結果でした。6年生は、国語と算数とも全国・県平均より低い結果でした。高学年では、特に応用力を試される問題や、記述して解答する問題に課題が見られました。日々の学習の中で、今まで学習したことを応用し自力解決していく学習活動や、自分の考えを図や文章等で表現する学習活動を大切にしていく必要があります。また、基礎的な学習内容の定着を図る学習時間の確保をしていく必要があります。これらの課題をはじめ、学年ごとに特に正答率の低かった問題の解き直しをすることを、教職員で確認しました。

5年生と6年生を対象に実施した学習状況調査から、国語や算数の授業が難しいと感じている児童が多いことも分かりました。難しく感じても課題を解決する力がついていれば問題ありません。しかし、「難しかった」で終わる授業ではいけません。「難しくても解決方法が分かった。」と子供たちが思える授業にしていきたいと考えています。



3年生 学習の様子

Q-U

真庭市では、3年生以上の児童を対象に年2回 Q-U を実施しています。Q-U は、子供たちの学校生活における“心の状態”を確認するためのアンケート形式の調査です。学力を測るものではなく、子供自身が「学校が楽しいか」「友達との関係はどうか」など、日々の生活の中で感じていることを答えていきます。Q-U の目的は、子供たちが安心して過ごせる環境づくりのヒントを得ることです。例えば、クラスの雰囲気や友人関係に悩みを抱えている子がいた場合、早期に気づき、必要な支援につなげることができます。

1回目の Q-U の結果から、昨年度の1回目と比較し、昨年度実施している4年生～6年生のすべての学年で「学級生活に満足している児童」、「明るく楽しいと感じている児童」、「仲良く協力し合っていると感じている児童」、「まとまって取り組んでいると感じている児童」の割合が上昇していました。

今年度より導入している学年担任制・教科担任制のよさのひとつは、「子供の安心感の向上・・・児童を複数教員で見守ることができる。担任との相性の影響が少ない。」です。そのよさが、1回目の結果にもつながっていると感じています。



1年生 学習の様子